

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	社会学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 3年次および4年次生における履修単位数上限を50単位未満とする	→3年次および4年次生における履修単位数上限	A	A	A		
2. 教員・学生間の学習上の双方向性を向上させる	→ミニッツ・ペーパー、小テストなどの利用数及びフィードバック状況、学生による授業評価など	B	B	B		
3. 到達目標および科目相互の関連性に配慮したシラバスを作成する	→シラバスにおいて到達目標および科目相互の関連性を明示している授業数	C	B	B		
4. 多面的な評価方法に基づく明確な評価基準を導入する	→多面的な評価方法と明確な評価基準を導入している授業数	B	B	B		
5. 少人数教育を徹底する	→基礎演習・インターミディエイト演習などの演習クラス定員減員(20名以下)	B	B	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2010年度以降入学生から履修単位数上限は半期24単位以内へと改正されている。
目標2	1年生対象のオムニバス形式のリレー講義において、各授業回のレポートへのフィードバックのスピードと頻度をさらに改善した。また、学生による授業評価アンケートの対象をほぼ全講義科目に拡大した。教員と学生の双方向としては、LUNA（教授者-学習者支援システム）の活用や、社会学部においてはマークシートリーダーを利用した平常時の学生のコメントや感想文の提出（年間50科目程度利用）によってコミュニケーションに生かされている。
★ 目標3	シラバスには到達目標が明示されるようになっている。ただし、科目相互の関連性を明示する取り組みには改善の余地がある。FD委員会において、シラバス全体の点検を行った。
目標4	シラバスには成績評価方法が明示されるようになっている。また、過度に多い履修者の科目に対し、申込制を導入して最大履修者数の抑制(350人以下に抑える)に成功したことなどにより、多面的な評価を行えるように促進活動している。
目標5	基礎演習・インターミディエイト演習などの演習クラス定員をすべて20名以下とした。
備考	